

リニア駅周辺整備基本計画(案)

リニア駅周辺の目指す姿 <<基本理念>>

ローカル グローバル
信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、
世界へ発信する玄関口

- <広域交通拠点>
地域の多様性を活かして豊かな暮らしを実現する持続可能なまちづくりを進めるため、県内各地をつなぐ“広域交通拠点”としての役割を果たします。
- <広域交流拠点>
長野県の南の玄関口として、また三遠南信地域の北の玄関口として信州・伊那谷の魅力を発信するとともに、地域の人々が集う場となる“多様な交流の起点”を目指します。

リニア駅周辺整備区域の整備コンセプト

- 1. 機能的でコンパクトな駅空間**
 - 各交通機関への円滑な移動を可能にし、乗換利便性が高いコンパクトな駅空間
 - 天候バリアフリーやユニバーサルデザインの視点を踏まえた駅空間
 - 利用者がくつろぎ、必要な情報を入手できる駅空間
- 2. 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間**
 - 来訪者を信州・伊那谷各地へ誘うために地域の魅力や情報を発信する駅空間
 - 信州・伊那谷の地場産品や伝統芸能等に触れられる駅空間
 - 美しい山並みや日本の原風景とも言える里山の風景を眺望できる駅空間
- 3. 自然との調和を目指した駅空間**
 - 新たに作り出される景観と伊那谷の美しい自然が調和した駅空間
 - 多面的な機能を持つグリーンインフラが整備された駅空間
 - 再生可能エネルギーの活用や低炭素社会の取り組みの場となる駅空間
- 4. 地域と一体化した駅空間**
 - 地域住民が日常生活で便利に使える駅空間
 - イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場として活用できる駅空間
 - 非常時には地域住民やリニア駅利用者が安全に避難でき、帰宅困難者にも対応できる防災機能を備えた駅空間



リニア駅周辺整備区域の施設配置

- 将来的な技術革新、来訪者ニーズの変化等に対応できる柔軟性のある施設の検討や、多面的な機能を備えた駅空間を目指します
- 新たなエネルギーをはじめ、再生可能エネルギーの活用を含めた低炭素な駅空間を目指します
- 災害時のバックアップに対応する駅空間を目指します

J R 飯田線乗換新駅

- 広域交通拠点として、リニア駅と在来線の乗換利用者の利便性向上のため J R 飯田線に新駅設置を検討

パーク&ライド駐車場

- 南北両側にパーク&ライド駐車場を整備。全体で750台を計画
- 高低差を活かして立体駐車場を整備

街区道路

- 県道市場桜町線と国道153号を結ぶ道路を駅南側に整備
- 交差点にはラウンドアバウトの導入を検討

交流広場

- 信州・伊那谷の特徴的な文化に触れたり、豊かな自然を演出した空間でイベントを楽しんだりできるスペースを整備
- 災害時には防災機能を果たす

魅力発信施設

- 来訪者が各地を訪問したくなるよう、信州・伊那谷の特産品や地域の食材、郷土食など、信州・伊那谷の魅力を体験し味わえる施設・機能を整備

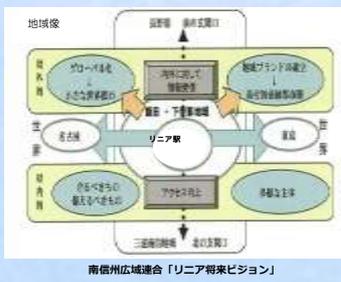
環境・景観の整備

- 自然環境への影響を軽減し、多面的な機能（気温調節・景観・排水等）が期待できるグリーンインフラを導入
- 再生可能エネルギーの活用等、低炭素化に取り組み、自然の恵みを受取る伊那谷と環境モデル都市・飯田をアピール
- 散策路やビューポイント等を整備するなど、周辺の環境を活かした施設整備を検討

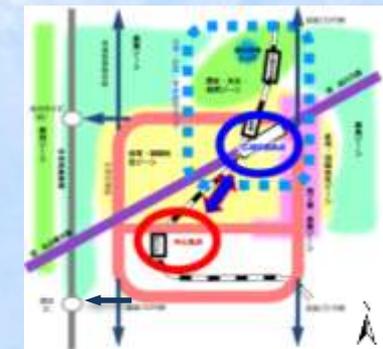
駅北側 約3.8ha
駅南側 約2.7ha
駅周辺整備検討区域 約6.5ha

リニアの整備効果を信州・伊那谷に広める

- 南信州広域連合をはじめ、伊那谷各市町村の計画を踏まえたリニア駅周辺整備を行います。
- 日本を支えるモデル地域として、将来を見据えた広域的な連携により、リニア開業による波及効果を信州・伊那谷全体へ広めます。



リニア駅周辺を含む拠点連携と土地利用



広域交通拠点・広域交流拠点となるリニア駅周辺をはじめ、既存ストックを最大限に活かしながら、これまでに都市機能が蓄積されてきた中心拠点などの連携を強化し、**田園型の国際学術研究都市づくり**に取り組みます。

中心拠点	中核機能や商業、居住等の都市機能がある中心市街地	飯田市の顔にふさわしい品格と賑わいのあるまちを創造するための機能充実化
広域交通拠点	リニア駅及びその周辺区域	広域交通拠点としての機能に特化した整備を推進し、各拠点機能と連携
交流拠点	環境、産業、生活等の新たな可能性が期待される地域	循環型社会のモデル地区として整備を推進し、自然や景観に配慮
地域拠点	振興センターや公民館等のコミュニティがある中心部	行政、教育、文化、福祉、医療、商業など地区に応じた地域機能の集約